



論争・学力崩壊

中公新書ラクレ・本体価格七六〇円

「中央公論」編集部 中井浩一 編

教育現場が悲鳴を上げる 大学生の学力低下問題の深刻

評者 北村行伸・一橋大学経済研究所助教授

政府・与党は四月六日に、不良債権の最終処理の促進や「銀行保有株式取得機構」の設置などを柱とした緊急経済対策を決定し、その後、森首相の辞任表明を受けての自民党総裁選では四人の候補者が政策論争を展開した。これらの一連の議論のなかで、ほとんど無視され、あるいは少なくとも重要問題として取り上げられなかったものの一つに教育問題がある。

アメリカのクリントン前大統領やイギリスのブレア首相は教育こそが最重要課題であるとして、国民が世界最高水準の教育を受けられるようにインフラ整備をし、家庭教育の強化や試験重視の教育政策を打ち出している。それにひきかえ、わが国では、いかに不況下とはいえ、次世代を担う子供たちの教育について、首相になろうかという政治家がほとんど語る言葉も持たないということに失望を禁じえない。

そんな折、ここ数年来、大学生の学力低下を裏証的に明らかにして、論争に火をつけた岡部恒治、戸瀬信之、西村和雄、別の側面から文部科学省の「ゆとり教育」を批判している和田秀樹、教育と社会階層との関連を明らかにした荻谷剛彦、それらの批判を受けて立つ文部(科学)省政策課長・寺脇研らの論考をコンパクトに集めて、整理したもののが本書である。

算数もできない一流大学生

本書は論争形式をとっている。ある立場の人びとが政府を一方的に非難しているという類いの本ではない。いろいろな立場の人が、いろいろな視点から、現代の教育問題を論じており、立場によって学力低下問題のとらえ方も異なっていることが明らかにされている。

この教育論争の一方の主役は従来どおり文部(科学)省であるが、対する相手は、これまで

の小中学校の教員を中心とした日教組および教育学者ではなく、小中高の教育を経て、大学に入ってきた学生を相手にする一般の大学教員たちである。それはイデオロギー上の対立ではなく、ただ単に技術として算数ができない、英語が読めない、文章が書けない、という大学生や大学院生が急増していることに驚き戸惑い、対応しきれずに、悲痛な叫びを上げているのである。評者もその当事者の一人として学力低下の問題に日々翻弄されているといっても過言ではない。

論争を通して、注意しなければならぬことは、学力低下は中位以下の子供たちのあいだで顕著であり、上位の子供の学力には変わりはないと中学や高校の現場の教員が主張しがちであるのに対して、西村和雄らはわが国の最難関国立・私立大学の試験結果をもって、その主張に疑義を呈しているのである。すなわち、受験競争の勝者であるはずの一流大学の学生のかんりの割合が小・中学校の算数もできなくなっているという事実である。

Book cover for '論争・学力崩壊' (Argument: Collapse of Academic Ability) edited by Hiroshi Nakai. The cover features a dark background with white text and a small image of a person.

本書のなかで荻谷剛彦が繰り返して主張していることであるが、文部(科学)省が新学習指導要綱や高校、大学の教育のあり方を決定するときには、理念が先行して、具体的なデータによってそれが裏付けられることは少

ないし、過去の政策評価もきちりと行なわれていないようである。これは、政府のあらゆる分野で行政評価が必要になろうかという時期には致命的な問題である。もちろん、西村和雄らによる試験結果の解釈や、試験を行なった環境のコントロールなどデータ分析には問題が残されているかもしれないが、いずれにせよ具体的なデータがなければ、印象論の水の掛け合いに終わってしまう。より建設的な政策論争には統計数字に限らず多様なデータの収集と客観的な分析が不可欠であろう。

●北村行伸、磯崎哲也、永井 猛、西村清彦、秦 信行、飯田 隆、西山賢一、池田信夫、井上義朗各氏の書評を順に掲載しています。

この本の目次
I 問題提起
ポスト学歴社会の選択……和田秀樹/日本の教育は世界の孤児になる……和田秀樹/大学生の頭がどんどん悪くなる……西村和雄・岡部恒治・戸瀬信之/学力の危機と教育改革——大衆教育社会の中のエリート……荻谷剛彦
II 論争の展開
徹底討論・子供の学力は低下しているか……寺脇研×荻谷剛彦/学力低下、そして日本は「階層社会」へ……清水義範/「学力」をどうとらえるか……丹羽健夫・安齋省一・荻谷剛彦/「日本型高学力」の現在と「学力低下」論議……須藤敏昭/子どもたちは何故「学び」から逃れ走るか……佐藤学/「社会主義教育行政」を改めよ……梶原英資/疑問・批判に答える……寺脇研/学力低下論争の構図と「もう一つの学力低下論」……市川伸一
III 教育現場と地方自治
「ゆとり」改革の功罪——全体の底上げか、エリート養成か……田村哲夫×藤田英典
〈緊急アンケート〉教育現場はこう考える……中井浩一編/公立高校は「第二の国鉄」か……河上一雄 他